東京都公立小学校長会

令和６年９月３日

**・学校経営力の向上　　・リーダーシップの発揮　　・職能団体としての自覚と責任**

第４回地区代表校長連絡会資料

会長　植村　洋司

**１　はじめに**

**〇全連小地区大会等**

**～各地区の特色ある研究大会の価値「校長にとって最大の研修の場」～**

**６月　６日（木）　関東甲信越地区長野大会（～７日）　９５０名**

**７月　４日（木）　東北地区青森大会（～５日）　　　　９５０名**

**８月　２日（金）　近畿地区奈良大会　　　　　　　　１０６８名（名簿）**

**８月　７日（水）　九州地区沖縄大会（～８日）　　　　９２６名（名簿）**

**９月１３日（金）　北海道地区空知・岩見沢大会（～１４日）**

**１０月１７日（木）　東海北陸地区愛知大会（～１８日）**

**１０月２４日（木）　全連小徳島大会（四国地区）（～２５日）**

**１１月　８日（金）　中国地区山口大会**

**１月２４日（金）　大会事前打ち合わせ会（～２５日）徳島・福岡・北海道・福島**

**〇奈良大会記念講演「夢と冒険　野遊びのススメ」**

**講師　辰野　勇（たつの　いさむ）氏（株式会社モンベル　代表取締役会長兼CEO）**

**・成し遂げるために大事な力は「集中力」「持続力」「判断力」。**

**⇒最も大事な力は「決断力」**

**：過去に経験のない事案に対峙したとき、未来に向けてあえて困難な道を選ぶこと。**

**経営者として重要な力。**

**（例）「モンベル・チャレンジ・アワード」：これからやろうとしている人に投資。**

**・「三人のレンガ積み」：経営者として、何のためにやっているのか、何につながって**

**いるのかを示すことが大事。**

**〇三地区対策調研担当協議会**

**東京　９月２６日（木）　大阪　１０月１０日（木）　福岡　１０月１１日（金）**

**協議題〔対策部〕１ 特別部会の審議を踏まえて、学校における働き方改革や処遇改善について**

**２ 各地区の教員不足の状況と、教員の量の確保と質の向上の取組ついて**

**〔調研部〕１ 教員の資質向上に向けた取組について**

**２ 学習指導要領全面実施５年目に係る取組状況と課題について**

**◆師に学ぶ校長の心得②**

**私の経営論**

**〇判断力と決断力**

・判断し決断する場面は、事の大小にかかわらず常にある。時には、突然大きな判断と決断を迫られることもある。その時に大事にしたいことは「シンプル　イズ　ベスト」である。特に、難しい対応ほど、シンプルに考える。背景は何か。課題は何か。課題解決のための最善の策は何か。できるだけ焦点化し、シンプルに考えることが課題解決の近道である。話をするときも、シンプルに「結論から先にいう」ことを心掛けている。もう一つ付け加えるならば、**最終決断の心構えは「覚悟」を決めることに尽きる。**

**「覚悟」に勝る決断なし。**

**２　会務報告〔全連小〕**

**７月　３日（水）　東北地区青森大会（４日（木））**

**７月　９日（火）　要望活動　第４回常任理事会　役員懇談**

**７月１０日（水）　小学校長会長連絡協議会**

**７月１１日（木）　発明協会創立120周年記念式典・記念祝賀会**

**７月１２日（金）　基金管理委員会**

**７月１７日（水）　中教審事前打合せ**

**７月１９日（金）　子ども家庭新聞社取材**

**７月２２日（月）・２３日（火）　事前訪問（福岡）**

**７月２６日（金）　中教審第１４回特別部会**

**７月３１日（水）　第６６回全国公立学校教頭会研究大会高知大会**

**８月　１日（木）　近畿地区奈良大会（２日（金））**

**８月　５日（月）　教育関係２３団体「緊急アピール」を文科大臣に手交**

**８月　６日（火）　九州地区沖縄大会（７日（水）・８日（木））**

**８月　９日（金）　中教審第145回初等中等教育分科会**

**８月１９日（月）・２０日（火）　事前訪問（徳島）**

**８月２２日（木）　文科省幼児教育ヒアリング　日本PTAレセプション**

**８月２７日（火）　中教審第139回総会**

**８月２９日（木）　日韓文化交流事前打合せ**

**３　今後の予定〔全連小〕**

**９月　４日（水）　第４回部長会**

**９月１２日（木）　北海道地区空知・岩見沢大会（１３日（金））**

**９月１９日（木）　第５回常任理事会**

**９月２６日（木）　三地区対策調研担当協議会（東京）**

**４　課題と解決策の共有**

**（１）学校における働き方改革の実現**

**（２）新型コロナウイルス感染症５類引き下げ後の感染対策と教育活動**

**（３）教員不足～教員の量の確保・質の向上の取組～**

**（４）GIGAスクール構想・ICT活用**

**・自治体間・学校間の「格差」が課題。積極的活用から効果的活用へ。**

**（５）高学年の教科担任制の推進（定数改善への対応）**

**・更に中学年の教科担任制へ（質の向上と持ち授業時数の軽減）**

**（６）学習指導要領の確実な実施～フォローアップすべき事項は～**

**（７）中教審答申「令和の日本型学校教育の構築」（令和3年1月26日）の理解と具現化**

**（８）学校・家庭・地域が一体となった学校経営**

**（９）各地区・各学校の新たな教育課題**

**・児童数減少（全国で毎年約150校減少）　・一部児童数増加　・全国18245名の会員**

**（10）今後を見据えた教育課題　・２人のキーパーソン**

**（11）その他**

**□WEB調査への転換～在り方検討委員会の議論を経て～**

**・令和４年度：人権教育委員会のみ試行。＊人権教育委員会の調査は初めて。**

**令和５年度：10委員会全てWEB調査に切り換えた。**

**・成果　⇒　集計を効率化し、分析に注力できるようになった。**

**・課題　⇒　回収率。90％以上で予想以上であったが、紙の調査では100％だった。**

**分析の手法の工夫。クロス集計を活用する等、新たな視点・切り口の創出。**

**その他：継続の設問　新たな教育課題　各委員会の設問の重複　等**

**５　国の動向**

**◎働き方改革**

**○給特法の見直しに向けた動き　・「調査研究会」論点整理（令和５年４月13日（木））**

**○勤務実態調査の結果公表（令和５年４月28日（金））　・６年ぶり**

**○自民党「令和の教育人材確保に関する特命委員会」**

**○中央教育審議会諮問（令和５年５月22日（月））**

**（１）更なる働き方改革　（２）処遇改善　（３）学校の指導・運営体制の充実**

**○経済財政運営と改革の基本方針2023（骨太の方針）（令和５年６月16日（金）閣議決定）**

**◆教育に手厚い内容　・「教師の処遇を抜本的に見直す。」**

**○中教審緊急提言（令和５年８月28日（月））◆「できることを直ちに行う」という考え方。**

**○文部科学省令和６年度予算（案）（令和５年12月19日（火）大臣折衝・22日（金）閣議決定）**

**○「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な**

**方策について（審議のまとめ）（素案）（令和６年４月19日（金））（案）（令和６年５月13日（月））**

**〇「審議のまとめ」に関する意見募集（令和６年６月14日（金）～６月28日（金））**

**〇「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策　　　について～全ての子供たちへのよりよい教育の実現を目指した、学びの専門職としての「働きやすさ」と「働きがい」の両立に向けて～（答申（案））（令和６年７月26日（金）・８月９日（金）・８月27日（火））**

**◎「審議のまとめ」について**

**○「３本柱の一体的・総合的な推進」の趣旨を大事にする。社会全体の理解・リスペクト。**

**（１）学校における働き方改革の更なる加速化**

**（２）学校の指導・運営体制の充実　・定数改善**

**（３）教師の処遇改善**

**〇全連小としては、「審議のまとめ」の確実な実現を切にお願いしたい。**

**・今を逃したら当分改革は実現しないという危機感。瀬戸際。今しかない。**

**・マスコミ等の一面的・否定的な報道や財務関係の否定的な見解　等。**

**・改めて、全連小として、現在の学校や教職員を取り巻く厳しい状況を鑑み、「３本柱の一体的・総合的な推進」を核に、処遇改善・定数改善を実現するとともに、校長として自ら更なる学校の働き方改革を加速化することを、校長会の大小様々な場で繰り返し訴えている。**

**◎経済財政運営と改革の基本方針2024（骨太の方針）の原案（6.6.11）閣議決定（6.6.21）**

**○公教育の再生・研究活動の推進（質の高い公教育の再生）**

**・質の高い教師の確保・育成に向け、2026年度までの集中改革期間を通じてスピード感を持って、働き方改革の更なる加速化、処遇改善、指導・運営体制の充実、育成支援を一体的に進める。**

**・学校・教師が担う業務の適正化やDXによる業務効率化を進めるとともに、学校における働き方改革の取組状況の見える化等、PDCAサイクルを強化し、教師の時間外在校等時間の削減を徹底して進める。**

**・教職の特殊性や人材確保法の趣旨、教師不足解消の必要性等を鑑み、教職調整額の水準を少なくとも10％以上に引き上げることが必要などとした中央教育審議会提言を踏まえるとともに、新たな職及び級の創設、学級担任の職務の重要性と負担等に応じた手当の加算、管理職手当の改善等の各種手当の改善など職務の負荷に応じたメリハリある給与体系への改善も含めた検討を進め、財源確保と併せて、2025年通常国会へ給特法改正案を提出するなど、教師の処遇を抜本的に改善する。**

**⇒中教審の「審議のまとめ」の提言が具体的に盛り込まれる内容となり、閣議決定された。**

**・少なくとも10％以上　・新たな職及び級の創設　・学級担任の手当の加算　・管理職手当の改善**

**・「見直す」　⇒　「改善する」　・「提出を検討する」　⇒　「提出する」　等**

**◎答申について**

**◆貞広部会長（千葉大副学長）の言葉から**

**・「働きやすさ」と「働きがい」の両立が大事。**

**・「今できることをすぐやる」。**

**・「これがゴールではなく、むしろここがスタートであり、これからが本番」。**

**・「３つの柱の一体的・総合的な推進」が大事。**

**＜参考＞**

**全連小地区大会の「祝辞」一部抜粋**

**全国連合小学校長会**

**会　長　植村　洋司**

　今時あたかも、教育改革推進の時節。特に、「学校における働き方改革」は、正に喫緊の最重要課題であります。

　この５月１３日に、中教審特別部会の「審議のまとめ」が出されました。この「審議のまとめ」について、様々な報道等があり、否定的・批判的に受け取られかねない状況も見られました。全連小としては、このような状況を看過することはできません。それは脈々と積み上げてきた地道な努力の上に、この「審議のまとめ」はあるからです。そして、今を逃したらこの改革は当分実現しないという強い危機感があります。正に、瀬戸際です。大事なポイントは、「３つの柱を一体的・総合的に推進する」という審議のまとめの趣旨理解です。３つの柱とは何か。それは、(1)学校における働き方改革の更なる加速化(2)学校の指導・運営体制の充実つまり定数改善(3)教師の処遇改善です。全連小としては、『「審議のまとめ」を肯定的に受け止め、確実な実現を目指す』というスタンスでおり、６月２７日に当時の矢野和彦文部科学省初等中等教育局長に要望書を直接手渡してまいりました。

今一番大事なことは、教育に携わる者が「一枚岩」になることです。そのためには、一体感と凝集性の高い我が全連小が、先頭に立って、国を動かしていくことが必要です。ぜひとも、全国の校長先生方のお力を貸してください。

「全連小は一つ」。全国の校長先生方みんなで、力を合わせて、国を動かしてまいりましょう。